

公益財団法人 檜の芽会 御中

## 令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和7年5月30日	
② 法人・団体名	地域協働総合文化本部		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	広島県呉市安浦町中央北 1-5-23		
④ 責任者氏名	峠下 陽	(役職名等)	代表
⑤ 担当者氏名	割方 遥花	(役職名等)	副代表

【奨学活動の概要】	⑥ 助成交付決定番号	R06-031	⑦ 助成金額	22万円	⑧ 申請カテゴリー	A
⑨ 奨学活動名	個別最適化学習「エヌ」					
⑩ 主な実施場所名・及びその住所	安浦まちづくりセンター・呉市安浦町中央 4-3-2					

⑪ 活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

⑫ 奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1	2	2	
高校生等	3	2	6	
大学生等				
学習支援員等	2	5	10	
その他	6	2	12	
合計			30	

⑬ その他の定量的な数値（任意）

# 令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

## 奨学活動名：個別最適化学習「エヌ」

法人・団体名：地域協働総合文化本部

作成者 氏名：峠下 陽

### 1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

普段の活動（創作や調理）が学習につながるよう、町内無料塾や大学と提携し、個々の学習能力に合わせた学習サポートの実施を目的とした。当初予定では、毎月定期的な活動としていたが、協働者とのスケジュール調整等により、夏休みと冬休み、春休みの長期休暇を重点的に活動を実施。特に課題の多い夏季休暇は、泊まり込みで課題サポートを実施するなど、尽力した。

### 2. 実施した奨学活動の詳細





主な活動がまちづくりセンターとなったが、改修が進む中で中国新聞に取り上げていただき、活動を通じて子どもたちの居場所づくりをしていることを多くの方に知っていただく機会となった。実際に現地での課題サポートも行った。



無料塾の先生も、活動時には参加していただき子どもたちの様子を見てくださったり、私の方から先生の活動場所に子どもたちを連れていき、双方の情報交換を絶えず行った。



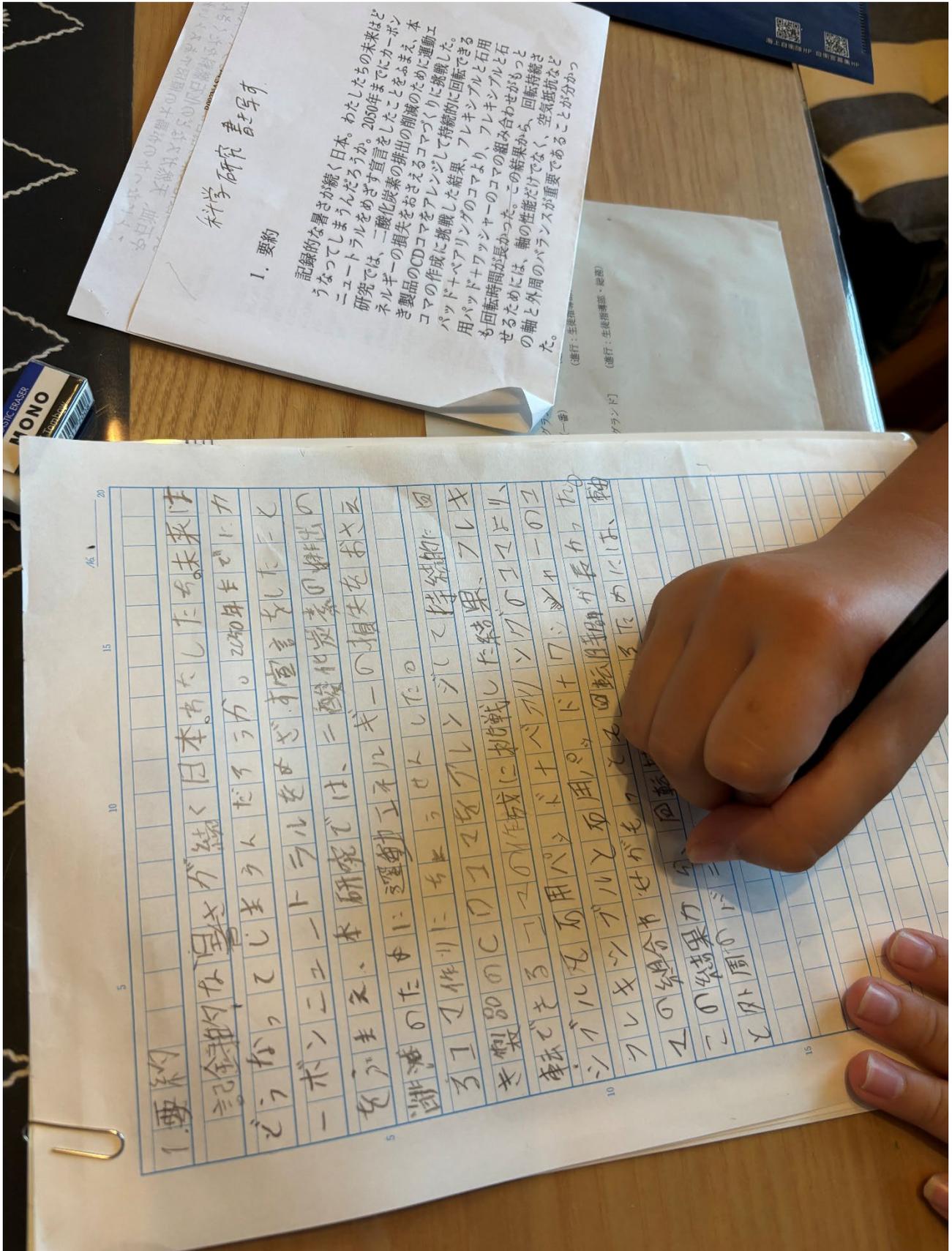
(写真：参加する子どもの保護者と対話する町内無料塾の信谷先生)

学びは、勉学に留まらず、企業の方を無料出張でお呼びして子どもたちに学びの提供にも尽力した。  
こどもひとりにつき、ひとりの高校生が付き、配電の難しさを学んだ。





普段の学習では、みんなの前で発表などはないが、企業との協働により人前で自分の意見を発表する子を体験する子どもたち。(危険予測を発表している様子)



(写真：特性があり、集中力の欠如が見られる男子生徒の様子)

代表自ら、自宅に招いて課題サポートを実施し、メリハリをつけながら課題を終える体験をしてもらった。その間、保護者にはきょうだい児とゆっくり過ごしてもらい、保護者へのサポートも留意。



(写真：呉工業高等専門学校生徒とインキュベーションワーク)

Nous 房の改修には、呉高専の生徒さんと協働を続け、「まなびのありがた」を伝えた。

ご助力により、今後子どもたちの学びのメイン活動場所となる Nous 房の配電盤交換を実施。  
シールでは剥がれてしまうため、樫の芽会様の刻印を実施する。



### 3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

「学習のサポート」のみ焦点を当てた活動であったが、ほか活動と並行する中で机上の勉学だけでは子どもたちの学力向上に寄与できないことを知ることができた。定期的な活動を計画してきたが、大学との協働には大学生のスケジュールと、学生にとって負担となる実施内容（特性や不登校という分野への理解）が、大学生との協働の難しさではないかと推測する。大学でのガイダンスも実施したが、もっと大学生にとって魅力的な内容から学習へのサポートへと誘引することで身近に感じてもらえる活動となると考える。

前述を踏まえて、大学生へは「生活に身近なところで地域貢献できるものがある」こと。地域の方へは、「これをしてください」と明確に伝えること。高校生へは、「これをしてくれないと困る」という、活動での困りごとをしっかりと伝えることで、子どもたちへの学習につなげていきたい。

### 4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

ある定期的にサポーターとして参加してくれている高校生から。

「シンガポールにボランティアとして春休みに行ってくるんです。わたし、タオシタさんの活動にだいぶ、影響されてます」きっと長く一緒に活動していないと聞けなかった言葉だと思います。彼女が現地で子どもたちと触れ合っている動画を送ってくれました。ああ、日本を超えてこうやって「さしのべたい手を自ら足を運べる学生が増えたら」と思いました。

### 5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリにて「S」が付されている団体）

カテゴリ該当なし